

## 第22回

## アジア・ジュニア

## 自転車競技選手権大会

ジュニア強化育成部会支援スタッフ  
(ジュニアトラック)  
相原 好宏

### 《大会報告書》

大会名 第22回アジア・ジュニア  
自転車競技選手権大会  
日 程 平成27年2月4日(水)～14日(土)  
トラック 2月4日(水)～8日(日)  
開催場所 タイ王国・ナコンラチャシマ



#### 参加選手<ジュニア・トラック> (12名)

##### (男子)

南 潤 (和歌山・和歌山北高校)  
森川 康輔 (岐阜・岐阜第一高校)  
伊藤 稔真 (三重・朝明高校)  
沢田 桂太郎 (宮城・東北高校)  
安川 義道 (奈良・榛生昇陽高校)  
安田 開 (京都・北桑田高校)  
今村 駿介 (福岡・祐誠高校)

##### (女子)

鈴木 奈央 (静岡・星陵高校)  
梶原 悠未 (埼玉・筑波大坂戸高校)  
橋本 優弥 (岐阜・岐阜商業高校)  
古山 稀絵 (東京・昭和第一学園高校)  
大久保 花梨 (福岡・祐誠高校)

## 2015. 02. 04 【第1日】

### ●女子ジュニアポイントレース

- 1位 梶原 悠未 (埼玉・筑波大坂戸高校) 53p
- 2位 GENELEVA Nadezhda KAZ 46p
- 3位 LEUNG Hoi Wah HKG 42p

20kmの距離で行われた。昨年のJ世界選手権銀メダリストの梶原が出場。スタート後、最近のアジアジュニアで好成績を残す GENELEVA(カザフ)の選手が徹底マークについた。1回目の中間スプリントは KIM(韓国)が5点を獲得、梶原はこのスプリントに参加せず冷静に次回以降を狙った。2回目以降は積極的に梶原が動きを見せ、2回・3回目の中間スプリントを1位で獲得。以降は梶原がレースの主導権を支配した。最終的に1回目を除いて全ての中間スプリントで点数を重ねた梶原が危なげなく優勝した。



### ●女子ジュニアチームスプリント

- 1位 チャイニーズタイペイ 48秒073
- 2位 日本(鈴木奈央・大久保花梨) 48秒853
- 3位 韓国 49秒178

大久保・鈴木の走順で臨んだ。予選は49秒281で2位通過。決勝の相手は予選1位の台湾チーム。台湾チームはスプリントで優勝した CHANと5位の WANG でスピード力に優れた2人が揃う強豪チームだった。全チーム1走選手の中で、大久保の1週のタイムは26秒869でトップタイム。決勝では26秒674とタイムを伸ばしたものの、総合力の誇る台湾チームに僅かに及ばず2位となった。大久保のスタンディングスタートは間違いなくアジアのトップクラスである事が確認できた。



### ●男子ジュニアチームスプリント

- 1位 チャイニーズタイペイ 1分03秒409
- 2位 マレーシア 1分03秒608
- 3位 韓国 1分03秒236

5 位 日本（南潤・森川康輔・伊藤稔真） 1 分 05 秒 390（予選タイム）

森川・伊藤・南の走順で挑んだ。ダッシュ力に優れた1走・森川のスタートに期待したが練習通りのスピードがみられなかった。伊藤・南ともに20秒台と健闘したが順位決定に進出できず5位。優勝した台湾チームの走りは2走・3走ともに19秒台だった。



## 2015. 02. 05 【第2日】

### ●女子ジュニア 500m タイムトライアル

- 1 位 CHANG Yao TPE 36 秒 724
- 2 位 KIM Soohyun KOR 37 秒 026
- 3 位 大久保花梨（福岡・祐誠高校）38 秒 411

大久保が出場。10人中7番目の出走だった。得意のスタンディングでトップスピードに乗せるのが早く、残り半周やや失速気味になったが何とか粘ってのフィニッシュ。大久保は、より一層持久力を高め、持ち味のスタートとスピードをこの種目で効果的に発揮し、更なる記録更新に期待したい。優勝はスプリントを制した台湾のCHANだった。



### ●女子ジュニアチームパシュート

- 1 位 日本（鈴木奈央・梶原悠未・橋本優弥・古山稀絵） 5 分 02 秒 084
- 2 位 韓国 5 分 10 秒 129
- 3 位 カザフスタン 追抜勝

予選からすべてのレース計3本、鈴木・梶原・古山・橋本のメンバーで臨んだ。女子ジュニアとして初の出場となった。これまでの練習では1周25秒00の平均ラップを目標に取り組んできた。ファイナルでは韓国チームと対戦。1km通過は1分18秒055と順調な滑り出し。2km、3kmと1分14秒台をキープし、対面スタートの韓国チームを追い抜く勢いだった。目標にしてきた4分台には届かなかったものの、2位以下に大差をつけて金メダルを獲得した。



### ●男子ジュニアケイリン

- 1位 KANG Shih Feng TPE
- 2位 OH Je Seok KOR
- 3位 MOHD SHAHRIN Mohamad Shariz Efendi MAS
- 5位 南 潤 (和歌山・和歌山北高校)
- 13位 伊藤 稔真 (三重・朝明高校)

伊藤・南の2名が出場。1st ラウンドは各組上位2名が2nd ラウンドへ進出した。2組に出場した伊藤は惜しくも3位、3組の南は2着決定と思われたが、ゴール直前に走路の凹凸に前輪をとられてバウンドさせ、着地の際に体勢を崩し落車し、まさかの敗退。2名とも敗者復活戦に掛けることになった。続くケイリン敗者復活戦は5人中3位通過で次の2nd ラウンドに進出。1組の南は落車のイメージが多少残ったものの、難なく3位での通過。2組出走の伊藤も3着でゴールしたが、2センターからの不規則な横の動き(irregular movement)の違反行為を取られ降格となり、伊藤はこの種目を終えた。

続くケイリン2nd ラウンド1組に登場の南。3位に入れば1~6位決定戦へ進出。2名の台湾選手に苦戦を強いられたが3位通過で見事ファイナルへの進出が決定した。金メダルを賭けてのファイナルでは、スピードでは群を抜く台湾のKANGと韓国のOHの2名がレースの主導権を握った。ペーサー離脱のあと2回、南は後方位置より積極的に前へ出ようと仕掛けたが、大外回りで先方を塞がれ3コーナー過ぎまで後方に位置した。センターから再度スパートを仕掛けるもののゴールまで届かず5着。優勝はスピードに勝った台湾のKANGだった。



### ●男子ジュニアスクラッチ (10km)

- 1位 PHONARJTHAN Patompob THA 13:06
- 2位 WOO Yong Suk KOR
- 3位 MOHD ZAMRI Eiman Firdaus MAS
- 7位 今村 駿介 (福岡・祐誠高校)

10 kmで行われ今村が出場。6 km過ぎ、タイミングよく今村がアタック。後続を引き離し周回を重ねた。今村を後続集団が追う展開となったが、牽制も入りお互いに様子を見ながら追走した。このままの逃げ切りかと思われたが、残り2周回後続集団に飲み込まれ、最後までスタミナを温存していた地元タイの選手が独走ゴール。今村は積極的に攻めのレースに持ち込んだが7着でゴールした。



### ●男子ジュニアチームパーシュート

- 1位 カザフスタン 4分26秒020
- 2位 韓国 4分28秒737
- 3位 日本 (沢田桂太郎・安川義道・安田開・今村駿介) 4分32秒977

予選からの3レースすべて沢田・安田・安川・今村のメンバーで出走した。目標は現状を考えて4分30秒を切るタイムを設定し臨んだ。予選4分34秒308で4位通過。1st ラウンドの対戦相手は4分30秒974で予選1位の韓国チームだった。予選でのタイム差は約4秒弱あったが、選手達のモチベーションが高く必勝態勢で臨んだ。デッドヒートを繰り返しながら善戦したが、フィニッシュで僅かに及ばず敗退した。

次の銅メダルを賭けた順位決定戦へ回った。対戦相手は予選で3位の台湾チーム。終始日本チームがリードを保ち、好記録も期待できるハイペースで周

回を重ねた。残り 4 周回、台湾チームが通過の際に弾き飛ばしたラバーパッドがそのまま放置され、スプリンターレーンを塞いだ。4 番手に付けていた沢田だけが避けきれずに落車。残す 1,2 km 以上を 3 名で走ることになったが、失速することなくフィニッシュ。銅メダルを獲得した。



#### ●男子ジュニアポイントレース 24km

- 1 位 CHEN Chien Chou TPE 48p
- 2 位 GANJKHANLOU, Mohammad IRI 36p
- 3 位 SIDDIKOV Dilsmurodjon UZB 34p
- 5 位 沢田桂太郎（宮城・東北高校）18p

東北高校の沢田が出場した。他国選手の動きに苦しんだレースだった。序盤、韓国選手が 2 回連続で中間スプリントを制した。3 回目に沢田がトップを取るが、直後に体力を温存していた 4 名の選手がカウンターアタックを仕掛けた。1 着のポイント獲得で体力を消耗した沢田はスピードに対応できず逃げを許してしまった。その後 4 回連続で逃げ集団がポイントを獲得し、更に沢田を含むメイン集団に追いつく勢いをみせた。このままでは点数獲得は不可能と判断。敢えてワンラップされ、リセットを促すように指示。終盤の 8 回目以降は集団でのスプリント勝負となったが、ここで台湾の CHEN が体力を残していた。中間スプリントを連続で 3 回制し、あと 2 回のポイント周回を残し優勝を決定づけた。

#### 2015. 02. 06 【第 3 日】

##### ●男子ジュニア 1km タイムトライアル

- 1 位 MOHD ZONIS Muhammad Fadhil MAS 1 分 06 秒 760
- 2 位 LI Chin Yi TPE 1 分 07 秒 457
- 3 位 南 潤（和歌山・和歌山北高校）1 分 07 秒 530

和歌山北高の南が出場した。ケイリンでの落車が最後まで尾を引き、自転車へのパワー伝達に全力を出し切れなかった様子だった。スタートからのスピードを最後まで走力をキープし、大健闘をみせ銅メダルを獲得した。



●女子ジュニア個人パーシュート

- 1位 梶原 悠未 (埼玉・筑波大坂戸高校) 2分 38秒 548
- 2位 CHANG Yao TPE 2分 39秒 937
- 3位 GENELEVA Nadezhda KAZ 2分 38秒 341

梶原が出場した。予選は2分39秒310でトップ。1kmを1分18秒733で入ったが、後半やや不規則なラップタイムとなった。金メダルを賭けたファイナルでは1周目のスタンディングスピードを若干抑えさせ、安定したラップで走り切ることを指示。対戦相手は台湾のスプリンターCHANGで、序盤から猛追してくることが想定された。決勝戦での梶原とCHANGは対照的な走りとなった。予選よりも早いスピードで乗せるCHANGに対し、梶原は抑え気味のスタンディング。1km通過までは若干のリードを許していたが、安定したラップを刻んだ梶原が追い上げをみせフィニッシュ。金メダル獲得となった。



2015. 02. 07 【第4日】

●女子ジュニアスクラッチ (7.5km)

- 1位 鈴木 奈央 (静岡・星陵高校) 11分 50秒
- 2位 LEUNG Hoi Wah HKG
- 3位 RYABOVA Svetlana KAZ

7,5kmで行われ、鈴木が出場。ディフェンディングチャンピオンである鈴木はスタートから徹底的にマークされた。全員が鈴木動きに反応する展開となり、鈴木ペースで周回が進み、ついていけない3名の選手がワンラップした。勝負は5名の選手に絞られるが、ここでも鈴木はまだ余力を残していた。タイミングよく飛び出した鈴木は他を振り払った形で余裕のゴールを果たした。



### ●男子ジュニア個人パーシュート

- 1位 LEE Taeun KOR 3分36秒206
- 2位 CHEN Chien Chou TPE 3分36秒685
- 3位 MITCHELMORE Maximilian Gil HKG 3分41秒609
- 6位 安田 開 (京都・北桑田高校) 3分44秒582 (予選タイム)

安田が出場した。チームパーシュートで大健闘した安田であり、好記録を期待した。やや緊張気味の安田であったが、スタンディングでの入りや、1kmの目安・平均ラップの目標などを確認しスタートラインに立った。1kmの通過タイムがやや物足りず、スピードアップを期待したが伸びることなくフィニッシュ。スピードを乗せきれずに本来の実力を出せないままに5位に終わった。



### ●女子ジュニアスプリント

- 1位 CHANG Yao TPE
- 2位 KIM Soohyun KOR
- 3位 大久保花梨 (福岡・祐誠高校)
- 6位 古山 稀絵 (東京・昭和第一学園高校)

大久保、古山の2名が出場。予選200mFtt大久保12秒877で5位、古山13秒741で9位の通過だった。1/8F、古山は予選4位のWANG(台湾)、大久保は予選8位のROSIDI(マレーシア)との組み合わせ

せが決定。古山は格上選手に健闘したが敗退。大久保は積極的な対戦で危なげなく勝ち進んだ。敗者復活戦に回った古山は1着でゴールし、両名の1/4F進出を決めた。古山の対戦相手はPARK(韓国)予選2位の選手だった。ストレート負けを喫し、5～8Fへ。一方、大久保の対戦相手は1/8Fで古山を下したWANG。予選タイムでは僅差で相手が上位となったが本選の戦いでは大久保が主導権を握り2本とも先行で勝利した。1/2F進出の大久保。対戦相手は予選ではトップのCHANG(台湾)である。スピード力のある相手のペースに封じ込められ、仕掛けるタイミングを失った。2本共先行を許し差し切れず敗退し、3～4位決定戦へ。5～8位決定戦の古山。持ちタイムの良いWANG中心にレースが動いた。古山は動ける位置取りを確保し、スプリントに備える。結局スプリント力に秀でたWANGが先着。古山の2着で6位が確定した。3～4位決定戦の大久保。対戦相手は予選2位のPARK(韓国)となった。大久保は1本目2本目共に積極的なレース運びで先行し粘りながらも逃げ切りで勝利した。





2015. 02. 08 【第5日】

●女子ジュニアケイリン

- 1位 鈴木 奈央（静岡・星陵高校）
- 2位 大久保花梨（福岡・祐誠高校）
- 3位 KIM Soohyun KOR

鈴木、大久保が出場した。2名とも1stラウンド・2ndラウンド共に危なげなく勝ち進み、Finalへ。出走メンバーはスプリント優勝者、スピードでは群を抜く台湾のCHANGとスプリント上位の韓国選手2名が強力なライバルとみた。スタートでは作戦通り、大久保がペーサー直後の位置取りを確保。残り1周半大久保が先行、鈴木が2番手につき盤石な展開をみせた。最終バックストレートから猛烈な勢いで後続選手が追い上げ、ゴール手前は混戦状態。最後まで粘り切った大久保を鈴木が僅差で上回り鮮やかなワンツーフイニッシュを飾った。



●男子ジュニアスプリント

- 1位 KANG Min Seong KOR
- 2位 KANG Shih Feng TPE
- 3位 RASOL Muhamad Khairil Nizam MAS
- 9位 南 潤（和歌山・和歌山北高校）
- 12位 伊藤 稔真（三重・朝明高校）

伊藤、南の出場。予選200mF南11秒534で8位、伊藤は11秒736の12位で通過した。伊藤は予選1位であるマレーシア選手との対戦。唯一10秒台で予選を通過したマレーシア選手に健闘したが力及ばず敗戦。南も積極的に先行したがゴールに届かず1/8敗者復活戦へ回りとなった。2名共に敗者復活戦でも思うように力を発揮することが出来なかった。





## <総括>

今回、本大会に備えて事前合宿を前橋グリーンロードで行い、万全な体制で大会に臨むことが出来た。開催地となるナコンラチャシマにある競技場が 333m 走路であることを想定した練習である。これまでに行ってきた伊豆ヴェロドローム 250m 木製走路との違いや、チーム種目でのスタンディング練習、周回スピードの微調整や先頭交替の確認作業を中心に大変意義のある合宿となった。また、冬季期間であることから、多くの選手が本格的なバンク練習に取り組む事が困難である事情も考慮して計画した。

本大会では、女子ジュニア選手の躍進が目立った。金メダル 5 個を含むトータル 9 個（金:5、銀:2、銅:2）のメダル数は参加国最多の獲得数だった。今回、初参加となったチームパーシュートは、普段の練習・大会では経験出来ない未経験種目であるが金メダルを獲得することが出来た。これまでのトレーニングキャンプ中、トライ&エラーを繰り返しながら重点的に強化してきた種目だけに、チーム全体として感慨深いものがあった。背景にはトレーニングの

成果も然るべきところであるが、鈴木・梶原の両選手を主軸にコミュニケーションをとりながら良い形でまとめ、チームワークで掴んだ勝利だった。予選、1st ラウンド、順位決定戦と 3 レースを走ったが、走る度に先頭交代の技術も向上し安定度を増した。更にチーム全体としての精度を高め、各選手の能力を効果的に引き出すことが出来れば、大幅にタイムを短縮する可能性が望める。

日本ジュニアチームだけで落車事故が 4 件発生した。男子ジュニアチームパーシュートは不可抗力の落車事故であったが、ケイリンでは走路の凹凸が原因で勝利を目前に落車した。このイメージが後々にまで尾を引き、勝敗を左右する最大の原因となってしまった。女子スプリントではスタート直後の低速時にグリップを失い落車したケースが 2 件。海外の屋外バンクの情報は得ていたものの、国内の競輪場や自転車競技場（整備の行き届いた）の走路感覚だけでは全力で戦えない事も改めて痛感させられた。有効な対策としては、とにかく現地での乗り込みを入念に行い、体で覚える手段しか見当たらないのが現状だと思う。

今大会はエリート選手団と帯同出来た事で様々な経験ができたように思う。競技に精通したスタッフからのアドバイスをはじめ、全選手が競技に専念できる万全な体制でレースに臨むことができた。レース当日は個別のタイムスケジュールに合わせて（競技開始 2 時間前まで）競技場に入り、メカニック面でも入念なチェックとメンテナンスをしていただき高校生にとっては羨ましい限りの参加体制であった。

最後に、日本ではシーズンオフに当たる開催時期で、コンディショニングの面での難しさが危惧された。しかし、間もなく始まる国内のシーズンを迎えるにあたり、明確な課題と目標を確認できる良いタイミングとも考えられる。年間を通してのパフォーマンスの維持が必要であり、今後も継続的で定期的なトレーニングキャンプの実施を行い、個人・チームとしてのスキルをベストな状態で保つことも重要な課題であると感じた。